

パブリックコメント「伊勢原市人口ビジョン案」及び「伊勢原市まち・ひと・しごと創生総合戦略案」に寄せられた意見と市の考え方

「伊勢原市人口ビジョン案」及び「伊勢原市まち・ひと・しごと創生総合戦略案」への貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。お寄せいただいたご意見と、それに対する市の考え方を公表します。

なお、お寄せいただいたご意見につきましては、原文を要約して掲載していますので、ご了承ください。

1 実施時期

平成28年1月21日（木）～平成28年2月22日（月）

2 閲覧方法

市ホームページによる閲覧のほか、公民館、市政情報コーナー（市役所1階）、経営企画課（市役所4階）への配架

3 周知方法

市ホームページ、広報いせはら平成28年1月1日号

4 意見提出方法

郵送、ファクシミリ、電子メール又は直接持参

5 提出された意見及び市の考え方

(1) 提出された意見 12件（13項目）

(2) 意見の要旨及び市の考え方

- *区分欄の表示 A：意見の趣旨が案で示す方向と同様であるもの
- B：意見を踏まえ、案の修正を検討するもの
- C：意見として承ったもの

【人口ビジョンへの意見】

	意見の要旨	区分	市の考え方
1	予想とのズレの有無と内容は。	C	<p>・平成22年度に行った本市の将来人口推計では、総人口は、穏やかに減少に転じ、平成34年には9万7千人程度になると見込まれています。</p> <p>そうした中で、第5次総合計画においては、計画期間において、現在の人口を人口規模を可能な限り維持することを目指しています。</p> <p>現状における本市の人口は、自然動態は年々増加幅が縮小しながらも自然増の状態が続いており、また、社会動態については平成26年度に10年ぶりの社会増となるなど、平成27年9月時点で101,439人（推計人口）と、当初の予想（将来人口推計）を上回る人口で推移しております。</p>

【まち・ひと・しごと創生総合戦略への意見】

	意見の要旨	区分	市の考え方
1	基本目標 1、施策展開の方向 (5)、施策①「シニア世代の就労支援」の指標「シルバー人材センター就業者数」について、全市的な就労支援を図るためには「各事業所の再雇用率」などで設定すべきではない。	C	・各施策に設定している KPI（重要業績評価指標）については、原則、各施策の取組との関連性が高く、かつ、計測することが可能な指標を設定しており、当該施策については、高齢者の就労意欲の促進を図り『地域で活躍できる環境整備を進める』ことを目的としているため、「シルバー人材センター就業者数」を指標として設定しています。
2	基本目標 3、施策展開の方向 (3) 施策①「特色ある教育の推進」について特色ある教育と地域住民の参加との関連性が不明確。	A	・本市の豊かな自然や伝統文化などの地域資源を活用し、伊勢原らしい教育を、地域や団体と協力しながら推進し、児童生徒の学習や生活の支援の充実を図っていくこととしています。 そのため、「教育活動における地域住民の参加者数」を指標として設定しています。
3	基本目標 4、施策展開の方向 (1)、施策②「スポーツの振興」の指標「週に 2 回以上運動やスポーツをする人の割合」について、どのような方法で調査をするのか。	C	・当該指標については、市民を対象とした体力・スポーツに関するアンケート調査を実施し、把握する予定です。
4	基本目標 4、施策展開の方向 (2)、施策①「既存ストックのマネジメント強化」の指標「普通建設事業費の一般財源比率の抑制（普通建設事業費の財源構成）」について、長寿命化のための指標としては不適切ではないか。	C	・今後の公共施設の長寿命化対策や機能集約を含む施設改修等にかかる事業費である普通建設事業費の財源確保は重要な課題となっています。また、本市の方針として、公共施設の機能集約等による施設総量の縮減を掲げる一方で、政策上新たな施設が必要な場合は、施設の保有総量を勘案しつつ整備することとしています。 これらを踏まえ、普通建設事業費について、国県補助金などの特定財源の確保に努め、財源構成における一般財源比率を抑制した中で、厳しい財政状況下にあっても持続可能な施設運営を行うことを目指すための指標です。
5	基本目標 4、施策展開の方向 (2)、施策②「公共交通対策の推進」の指標「バス路線の拡充地区数」について、拡充地区数ではなく運行本数で図るべきではないか。	C	・本施策は、高齢社会の更なる進展を見据え、バス路線がない地区の解消を目的としているため、路線バスの拡充により解消される地区数を指標としています。
6	全ての KPI（重要業績評価指標）の目標値について、現状値比のパーセンテージを明記するとより分かりやすくなると思う。	C	・指標により、上昇を目標とするものや減少を目標とするもの、また、定性的であるものなど、指標ごとに数値設定の考え方が異なることから、現状値と目標値を併記する形で記載しています。

【人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略全般に関わる意見】

	意見の要旨	区分	市の考え方
1	国政が打った施策が創り出した超少子化を、市の財政力でどこまで補足できているのか。	C	・日本全体が人口減少社会に突入し、全国で一斉に地方版人口ビジョン及び総合戦略の策定が進められています。本市としても、現状を打開するため、市として取り組むべき必要があると考えることから、厳しい財政状況であるものの、国や県の施策と連動しながら、第5次総合計画や今回策定するまち・ひと・しごと創生総合戦略における少子化対策に取り組んでまいります。
2	この問題に対して過去の市政において打たれてきた施策はどのようなもの。	C	・本市では、第5次総合計画に基づき、保育サービスの拡充による仕事と子育ての両立など、子どもを安心して産み育てられる環境づくりを進め、出生者数の減少を抑えるとともに、特に働き盛りの世代の居住の場として選択されるために、地域の資源や個性を生かした魅力あるまちづくりを進めています。
3	学識経験者や行政、議会の代表を交えて、学習や質疑応答できる場が必要では。 対策案の議論にあたっては、一般市民をはじめ、行政職員の代表の参加が必要ではないか。 特に若い世代に特別な役割を持ってもらえる場を創ることが必要ではないか。	A	・人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略の策定にあたっては、市長を本部長とする伊勢原市まち・ひと・しごと創生本部会議を設置し、検討を進めるとともに、住民をはじめ、産業界・行政機関・教育機関・金融機関・労働団体・マスメディア（産官学金労言）等で構成する伊勢原市総合戦略推進会議を設置し、本市の人口減少と地域の活性化への対策に係る方向性や具体案について検討してきました。 また、人口ビジョン及び総合戦略の検討にあたっては、若い世代の意見を取り込むことも必要であると考え、推進会議においては、大学生や子育て中の市民にも参画していただいております。 さらに、議会に対しても、随時、策定状況を報告するとともに、質疑応答や意見交換を行いながら、これまで策定を進めてきました。
4	現状値、仮定値に基づく分析に留まらず、6W2H（何を、なぜ、誰が、誰に、いつ、どこで、どのように、いくら）を適宜使用して、もっと踏み込んだ内容が欲しい。	C	・人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略の策定にあたっては、客観的なデータによる分析に基づき、内容を検討してまいりました。 特に総合戦略においては、第Ⅱ章で本市の現状と課題を取り上げ、第Ⅲ章で具体的な施策にKPI（重要業績評価指標）を設定し、推進していくこととしています。

	意見の要旨	区分	市の考え方
5	総合計画、都市マスタープラン等との諸計画との関連性が分からない。	C	<p>・本市では、第5次総合計画において、「現在の人口規模を可能な限り維持することをめざす」とし、これまでも子育て支援策の充実や、地域産業の振興により、人口減少の克服と地域の活性化に主体的に取り組んできています。</p> <p>まち・ひと・しごと創生総合戦略は、第5次総合計画の目指す「しあわせ創造都市」の実現に向けた、人口減少や地域経済縮小の克服等の課題に対応した「まちづくり」を補完するものとして策定しており、人口ビジョンは、今後、目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示し、総合戦略を策定する上での基礎資料として位置づけています。</p> <p>また、各個別計画との関連性としては、関連する主な個別計画等を各基本目標の末尾に記載しています。</p>